

<留学報告書>

人文学部 田代優穂

留 学 先：アメリカ合衆国 テキサス大学アーリントン校

留学期間：2011年 8月 ～ 2012年 5月

私が最初にアメリカについたときは、なにもかもが分からず、突然知らないところに放り出されたようでした。初めて乗る飛行機は一人で乗り換えまでしなくてはならず、東日本大震災のためにアメリカに行く直前まで山形大学に通い、テスト勉強などをしていたため、留学のための準備も直前までなかなかできず、あっという間に来てしまったという感じでした。アメリカに着いた後も暮らすのに必要なものを買わないといけなく、テキサスは車がないと生活できない場所で、免許も車もない私は、山形大学に以前短期留学していた友達に頼るしかありませんでした。しかし、友達は嫌な顔一つせずになにからなにまで手伝ってくれたので助かったことを覚えています。

学校が始まってからは、私は留学生が多くいく語学学校に行かず学部留学をしたということもあり、アドバイザーの先生以外にはあれこれとサポートしてくれるようなスタッフもいなく、自分でやらないといけないことが多く大変でしたがアメリカ人の友達に手伝ってもらったり、同じ状況にある友達と励ましあったりして何とか乗り越えていきました。

秋学期には、マクロ経済学、フランス語、神話学、英語を取りました。マクロ経済学は大きなホールの中で行われました。先生は適格に教えてくれる人で、宿題などもあまり多すぎず、直接試験につながるのであまり苦にはなりません。フランス語は、クラスメートとペアを組んだりしたりしてやるので、最初のうちはとても緊張していましたが、クラスメートも英語とフランス語を同時に理解しないといけない私に辛抱強く付き合ってくれました。そのクラスは先生もとても優しく、尊敬できる先生でした。神話学は、もともとギリシャ神話などに興味があったので、とても面白く、先生も優しく良かったと思います。英語の授業は、あまり書くことの得意ではないアメリカ人や留学生が集まっているクラスで、少し簡単だったのですが、英語での書き方を学べてよかったです。先生は、少し適当なところはありましたが優しい先生でした。春学期には、ミクロ経済学、ダンス鑑賞、演劇・映画鑑賞、ダンスパフォーマンス、英語を取りました。ミクロ経済学の先生は優しい先生だったのですが、あまり板書をしてくれず、ついていくのが大変でしたが、教科書を見ればわかる内容だったので何とか耐えました。ダンス鑑賞のクラスでは、世界の色々なダンスについて学び、たまにダンスの実践があり、どちらかという楽しい授業で、

先生は大変優しく私が困ったことを徹底的にサポートしてくれました。演劇・映画鑑賞は、演劇や映画の歴史をたどっていく授業で、もともと興味のある分野だったのでとても興味深かったです。ダンスパフォーマンスは、モダンバレエを中心に扱っていて、以前クラシックバレエをやっていたのでやってみたいと思いやってみました。学期の最後には発表会もあったので、練習などは大変なこともありましたが、とても楽しい授業でいい経験になりました。

留学でつらかったことは、車がなかったことと、英語力の足りなさを実感し英語力の低さゆえにできなかったことです。やはり車がないと好きな時に好きなところに行けず、ストレスがたまることがあったことです。私は、自炊をしていたので食べ物を買に行くにも友達に頼む必要がありました。しかし、幸運なことに友達は嫌な顔せず手伝ってくれました。英語には自信があったのですが、現地に着くと役に立たないと感じました。書くことは得意だったのですが、話す練習をしていなかったため、瞬時に思いつくことが出来ず、思いついたとしても、間違っただけのことを言いたくないと強く思っていたため、最初のうちはあまり話すことができませんでした。周りの人たちが楽しそうにしゃべっているのを聞いてもよく理解できないことがあったり、理解できたとしても、どうやって話に入っていけばいいのかがわからなくて自分の不甲斐なさがとても辛かったです。しかし、間違いを気にすることをやめた瞬間に話すことが楽しくなっていき上達していくのを感じました。調子の良くない日があると落ち込みましたが、ちょっとずつよくなっていくにつれあまり臆することなく話せるようになっていき、英語で話すのが楽しくてしょうがありませんでした。現地で知り合った友達とも英語で冗談を言ったりして会話を心から楽しめるようになり、仲良くなることが出来ました。

留学では日本で暮らしているときにはないような不自由なことや、自分の中で悩むことが多くあり、簡単でただ楽しかったとは言えませんが、つらかったことを乗り越えたところに本当の幸せが待っているのだと実感しました。留学での経験を生かし立派な大人になれるように頑張っていきたいと思います。

